



祭りの音、伝統の響き 第26回北本市郷土芸能大会

2月16日、文化センターで「第26回北本市郷土芸能大会～未来へつなごう伝統の響き～」が開催されました。市内の囃子5団体、剣武1団体に加え、特別出演として関東各地のお囃子好きで結成された^{いっそうれん}壱奏連の皆さんが出演し、ホールにお祭りが来たようにぎやかな音がひびき渡りました。最初の演目では囃子に合わせてひょっとこが踊りを披露。大人に続き、かわいらしい子どものひょっとこが登場すると、会場は拍手喝采。前半の最後を飾るゲストの壱奏連はキレのある動きとお囃子の高い技術で一気に会場を引き込みました。後半は18年ぶりの参加となる上手囃子保存会が獅子舞を披露。さらに狐の躍動感あふれる踊りや剣武、太鼓を載せた船などの演目が続き、来場した観客の皆さんが郷土芸能を堪能しました。



「きたもと縄文みやげ」開発アイデアコンテスト優秀賞が決定！

3月1日、「縄文文化都市きたもと」をPRする「きたもと縄文みやげ」開発アイデアコンテストの2次審査と、審査結果発表が行われました。提案者の皆さんの“きたもと縄文愛”があふれる力作と、熱のこもったプレゼンで会場はおおいに盛り上がりしました。グルメの部で最優秀賞を受賞した岩崎澄世さんの「コロコロくるみのひと^{くち}ケーキ」は、デーンタメ遺跡から見つかったクルミや、クルミ形土製品にちなんで、粉末状のクルミを生地混ぜこみ、表面にもクルミをのせて焼いたケーキで、グッズの部で最優秀賞を受賞した後藤宏子さんの「きたもっちゃんストラップ」は宮岡水川神社前遺跡から見つかった土偶をモチーフに1体ずつ手作りで作成されています。受賞した作品は今後、北本市特産品推進委員会が商品化に向けて伴走支援を行います。



グルメの部 最優秀賞
コロコロくるみのひと^{くち}ケーキ

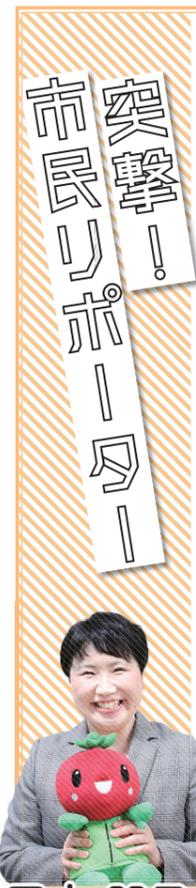


グッズの部 最優秀賞
きたもっちゃんストラップ (あみぐるみ)



デーンタメ遺跡 国指定記念シンポジウムを開催

3月9日、文化センターホールで「国指定記念シンポジウム『デーンタメ遺跡-巨大集落はなぜ継続できたのか-』」が開催されました。シンポジウムでは、明治大学文学部の阿部芳郎教授や、東京大学総合研究博物館の米田稷教授などが登壇し、昨年10月に国史跡に指定されたデーンタメ遺跡の概要の紹介や、大規模な集落が1,500年もの長期にわたり継続した秘密について、最新の調査研究成果をもとに迫りました。市民団体「デーンタメ縄文^{もり}の杜プロジェクト」の早野圭一さんと辻田陽子さんも登壇し、縄文体験のおもしろさ、魅力について紹介しました。また、講演に先立って、ハワイエでは出土品展&市民活動パネル展と、登壇者による展示解説等が行われ、多くの熱心な縄文ファンがそこかしこで先生方と熱いトークを繰り広げました。当日は平成29年のシンポジウム初開催時に次ぐ600人以上が来場し、デーンタメ遺跡の今後の研究の進展や、取組みの活性化への期待の高さがうかがえる一日となりました。



岡本 朋子さん

デーンタメ遺跡講座で縄文時代の北本のことを知りました!!



市民リポーターの岡本です。今回は、令和6年12月7日に公団地域学習センターで行われた、デーンタメ遺跡講座についてのレポートです！皆さんご存じのとおり、令和6年10月11日に国の史跡として指定されたこの遺跡。今回、実際発掘に携わった市教育委員会参事の磯野治司さんが講師となって、遺跡に関する様々なお話をしてくださいました！！会場は募集人員50人のところほぼ満席！熱心に講義を聴く方々と共に、約90分間縄文に思いを馳せてきました。



お話によると、現代の私たちに通じるような生活を、縄文人は送ってきたようです！学生時代の知識のアップデートもでき、歴史好きだった童心に返ることができました。何より、講師の磯野さんの楽しいお話！事実を検証するため、自宅で植物を栽培し調理するなど、研究というのは知識の積み上げだけでなく実践も必要なのだということも知りました。講義終了後、デーンタメ遺跡は学習センターから徒歩圏内ということで、いただいた地図を元に近くを散策しました。今は静かな雑木林となっている地に、縄文の人々が暮らしていたのだなあと感慨深かったです。

